

[三殿台遺跡 収蔵庫、遺跡覆屋]見学レポート

それは地下鉄弘明寺の駅から20分程山登りをすると県立外語短大の奥にあった





竪穴住居跡保護棟である





豎穴住居跡保護棟

発掘された遺構は埋め戻され、標石で位置と時代が示されているが、この建物の中では、豎穴住居跡が、発掘当時の姿を崩さぬよう科学的な処理がしてある。火災にあって床が焼けた一番大きな豎穴、その床をこわして造られた小型の新しい住居、このような事実からそれぞれの新旧関係を知ることができる。







擬木は竖穴住居跡の輪郭を表示しているという





正面に見えるのは考古館である

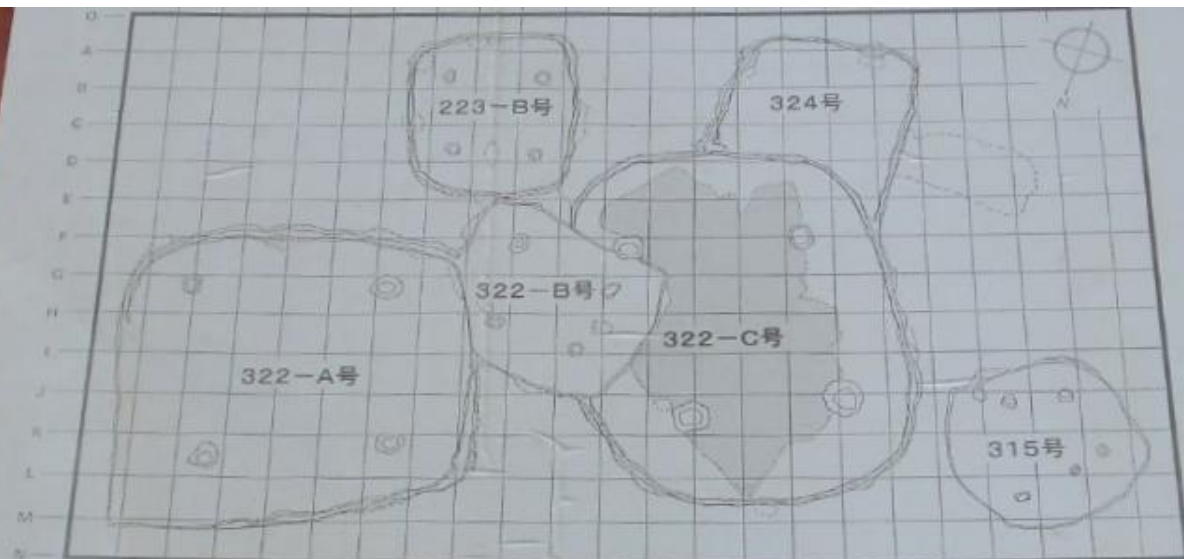


軒天はフレキの突き付けにペンキ仕上げになっていたがあばれている



縦樋は角型で柱面に同面で納めている





保護棟内住居跡現況平面図

| 住居跡の番号 | 年 代 | 特 色 |
|--------|-----------------|---|
| 223-B号 | 弥生時代後期 (弥生町式期) | 炉から多量の木炭片が発見された。 |
| 315号 | 弥生時代終末期 (前野町式期) | 壁溝は存在しない。 |
| 322-A号 | 弥生時代終末期 (前野町式期) | |
| 322-B号 | 弥生時代終末期 (前野町式期) | 壁溝は存在しない。 |
| 322-C号 | 弥生時代後期 (弥生町式期) | 床面が一面に焼けており火災にあった住居。そのため炉は確認されていない。 ※ 後日、整備の際に炉は確認された。 |
| 324号 | 弥生時代後期 (久ヶ原式期) | |

(「三殿台」横浜市教育委員会 1965年3月刊)



屋根は鉄骨ラチス組になっている







右手が考古館、左手は休憩所になっている







秋田県二雄石遺跡考古館

本館は、秋田県二雄石遺跡の発掘調査結果に基づき、
1997年に開設された。本館には、発掘された土器や
土器片、縄文時代の遺物や、縄文時代の生活の様子
を伝えるための展示品が展示されている。



横浜市三殿台遺跡考古館

三殿台遺跡から出土した、数多くの遺物のうち、最も代表的なものが常時展示されています。考古館は、文化財の保護と活用を通じて、横浜市の教育・文化の向上、学術の発展に資するため、各種の研究・広報活動を行うために設置されました。



単管パイプの補強は一時的なものか？



軒廻りのデザインが何を示唆しているのか





室内の床レベルが入り口のタタキのレベルより低いのはどうしたことか



誰もいません(ご自由に！)

正面のトイレもいっしょに造ったのであろうか



外部で鉄筋の爆裂によりサビた主筋が露わになった状態の部分が見られた。早急な補修が望まれる。

休憩所から考古館を見る



この休憩所は誰がデザインしたのであろうか



遺 構 表

三殿台遺跡からは、250軒を超える縄文・弥生・古墳時代の竪穴住居跡などの遺構が発見されました。竪穴住居跡の大部分は埋め戻されていますが、そのうち平面形や大きさが分かるものは、輪郭を地表面に擬木で表示しています。

重なり合った住居跡の場合には、新しい住居によって壊された古い住居の輪郭部分は点線状に表現しています。

擬木の上面は、各々の遺構の時代が分かるようにつぎのように色分けされています。

| | | |
|-----------|-------|-----|
| 縄文時代(赤) | 竪穴住居跡 | 4軒 |
| 弥生時代(焦茶色) | 竪穴住居跡 | 58軒 |
| | 溝状遺構 | 2基 |
| 古墳時代(黄土色) | 竪穴住居跡 | 11軒 |



掘り上がった竪穴住居跡群(南東部)



表示対象遺構の分布図

横浜市教育委員会

三棟の竪穴住居は左からそれぞれ弥生、縄文、古墳時代の復原住居



弥生時代竪穴住居(円形平面、入母屋造りになっている)



竪穴住居 (弥生時代中期・紀元3世紀頃)

兵庫県神戸市中央区(1)122-1-1 住居跡(弥生時代)

紀元前4世紀頃に大塚から移された弥生時代中期から、室町時代前期までの約2000年の間に、この地に生活した人々の生活の跡が、この竪穴住居跡に遺り残っています。この竪穴住居跡は、弥生時代中期から後期にかけての住居跡と見られる。この竪穴住居跡は、弥生時代中期から後期にかけての住居跡と見られる。この竪穴住居跡は、弥生時代中期から後期にかけての住居跡と見られる。

竪穴住居（弥生時代中期・紀元1世紀頃）

復原住居（122-A号住居址・宮ノ台式期）

紀元前4世紀頃に大陸から伝えられた稲作の技術は、食糧のすべてを自然界に求めた縄文時代から、農耕生産を基礎とした弥生時代の村落社会を生み出した。この家屋は、三殿台遺跡で発掘された弥生時代のものではもっとも古く楕円形の平面を示し、床の北側に炉が掘られていた。四本の主柱に支えられた入母屋造りである。

弥生時代竪穴住居



左手は縄文時代、右手は古墳時代の竪穴住居



竪穴住居（古墳時代後期・紀元7世紀頃）

復原住居（415-0号住居址・鬼高式期）

この地方が大和を中心とする、古代国家の支配下にはいった大化改新頃になっても、農民たちは弥生時代と大差ない竪穴住居に住んでいた。これも四本の支柱で支えられた入母屋造りであるが住居の平面は方形になり北側屋内にかまどが築かれ、米が主食として普及したことを物語っている。

古墳時代竪穴住居(方形平面、入母屋造りになっている)



竪穴住居 (縄文時代中期・紀元前3000年頃)

● 復原住居 (10-B号住居址・加曾利E式期)

自然界に食糧を求めて暮らした縄文時代の人びとは、こうした日当りの良い丘の上に数軒で構成されるむらをつくった。この住居は、長い縄文時代の中でも、とくに生活条件のよかった時期で、こうした村のあとは、横浜でも数多く発見されている。家の平面はまるみのある五角形や六角形、または円形に近いものも多く、床の中央に土器を埋めたり河原石で囲んだ炉があり、家の外形は、一般には円錐形と考えられている。

古墳時代竪穴住居(円形に近い平面、円錐形の造りになっている)



岐路につきますが、ここはこんなに高い位置にあるのです



これが管理事務所です(さみしいー！)



入り口の前は昔、貝塚だったという





裏手に廻って一枚



| 年月 | 西暦 | 工事名 | 所在地 | 工事期間 | 助手 | 構造設計 | 施工 | 構造種別 |
|---------|------|------------|-------------|---------------|-----------|------|------|------|
| 昭和38.10 | 1963 | 三殿台遺跡 収蔵庫 | 神奈川県 横浜市磯子区 | 昭和38.10～39.10 | 松浦弘二・加藤岩男 | 加藤岩男 | 市営繕課 | RC造 |
| 昭和38.10 | 1963 | 三殿台遺跡 遺跡覆屋 | 神奈川県 横浜市磯子区 | 昭和38.10～39.10 | 松浦弘二・加藤岩男 | 加藤岩男 | 市営繕課 | SRC造 |



170軒近くあり、当時のムラ跡としては大変貴重なものであることがわかりました。そのため、大岡川流域の原始・古代のムラの様子と当時の生活をしることができる重要な遺跡であるとして、1963(昭和38)年永久保存することが決まりました。1966(昭和41)年に国の指定史跡となり、翌1967(昭和42)年、三殿台考古館が開館して、遺跡とともに公開されています。



発掘された三殿台遺跡 1961年

横浜の原始・古代

| 時代 | 年代(約) | できごと | 市内の代表的な遺跡 |
|-----------------------|-----------|--|----------------------------|
| 先 土 器 時 代 | 130,000年前 | <input type="checkbox"/> 下末吉台地が陸化 関東ローム層形成 | |
| | 22,000年前 | <input type="checkbox"/> 最後の氷期 市内に人が姿を現す <input type="checkbox"/> 大型の槍が作られる | 矢指谷遺跡(旭区) 向原遺跡(都筑区) |
| 縄 | 9,000年前 | <input type="checkbox"/> 土器作りがはじまる 弓矢や有茎尖頭器の使用 | 花見山遺跡(都筑区) |
| | | <input type="checkbox"/> 燃糸文土器が作られ ムラができる <input type="checkbox"/> 縄文海進の始まり 近世土器の普及 | 大塚遺跡(都筑区) 菊名貝塚(港北区) |

この丘の上に初めてムラが作られたのは縄文時代中期(約四五〇〇年前)のこと。当時の家は地面を掘りくぼめた竪穴住。調査では5軒が見つかっていますが、一時期3軒の小さなムラでした。後期にも小さなムラが作られますが、そこで途絶えてしまいま



| | | | |
|------------------|---------|---|--|
| 文 時 代 | 6,000年前 | 平底土器の普及 <input type="checkbox"/> 多数の貝塚集落形成 | 南厩貝塚(都筑区) |
| | 5,000年前 | <input type="checkbox"/> 大型の集落成立 たくさんのムラができる | 三の丸遺跡(都筑区) 三殿台遺跡 |
| | 3,000年前 | <input type="checkbox"/> 狩りや漁が活発に行われる <input type="checkbox"/> 定型的集落の減少 ムラがほとんどなくなる | 称名寺貝塚(金沢区) 杉田貝塚(磯子区) |
| 弥 生 時 代 | 2,000年前 | <input type="checkbox"/> 弥生土器が現れる <input type="checkbox"/> 環濠集落出現 大岡川流域にムラができる | 霧ヶ丘遺跡(緑区) 大塚・歳勝土遺跡(都筑区) 三殿台遺跡 |
| | 1,800年前 | <input type="checkbox"/> 環濠集落減少 小規模なムラがふえる | 殿屋敷遺跡(港南区) 三殿台遺跡 |
| 古 墳 時 代 | 1,600年前 | <input type="checkbox"/> 古墳の築造開始 <input type="checkbox"/> 住居にカマドが作られる | 日吉観音松古墳(港北区) 殿ヶ谷古墳群(南区) 東原遺跡(都筑区) |
| | 1,500年前 | <input type="checkbox"/> 埴輪を伴う古墳が出現 <input type="checkbox"/> 横穴墓が各地で造られる | 瀬戸ヶ谷古墳(保土ヶ谷区) 三殿台遺跡 七石山横穴墓群(栄区) |
| | 1,300年前 | <input type="checkbox"/> 武蔵国・相模国、 都筑郡・久良郡成立 <input type="checkbox"/> 都筑郡の服部於田 防人歌をよむ <input type="checkbox"/> 掘立柱建物と竪穴住居の ムラができる | 長者原遺跡(青葉区) 北川表の上遺跡(都筑区) |
| 平 安 時 代 | 1,200年前 | <input type="checkbox"/> 溝で囲まれた館が造られる <input type="checkbox"/> 小規模な寺が造られ 火葬墓が多く造られる <input type="checkbox"/> 立野牧・石川牧が 朝廷の牧となる | 神隠丸山遺跡(都筑区) 般若不動原遺跡(都筑区) |

すはムラ
2
居
こ
の
は
す
は
す
は




住居の分布 [中期 ■ / 後期 ■]

縄文時代

10号住居跡は平面形が円形で、石で囲った炉を持つ、典型的な縄文時代中期の住居の姿をよく残していました。その形をもとに復元住居が作られています。



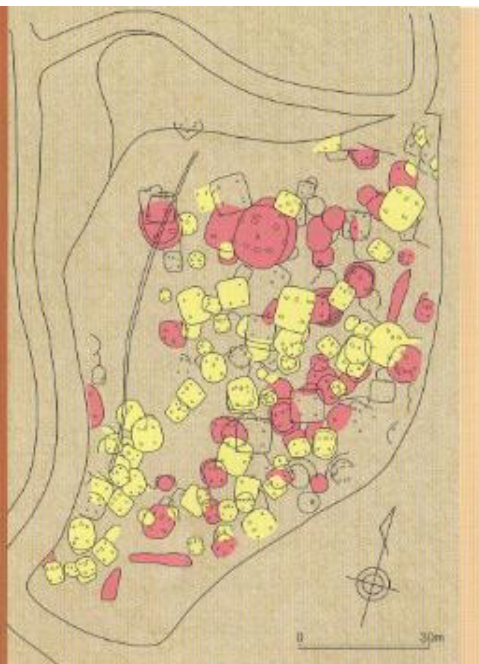
また、この頃は遺跡の近くまで海が入っていたので、人びとは海辺へおどりて貝や魚などを採っていました。その証拠がムラの周りに貝塚として残っています。

北側にある貝塚は今も草地の下にあり、土器やアサリ・ハマグリなどの貝殻、シカやイノシシなどの骨が発見されています。



Joumon Period

丘の上に再び人の姿が現れるのは、弥生時代中期(約二〇〇〇年前)になってからです。稲作と金属器の文化を持った人びとが大岡川流域にもやってきてムラが作られました。後期の終わり頃まで170軒ほどの住居が作られました。同時に建てられていたのは20軒程度だったでしょう。それでもムラの規模は大きく、流域の中心的なムラでした。



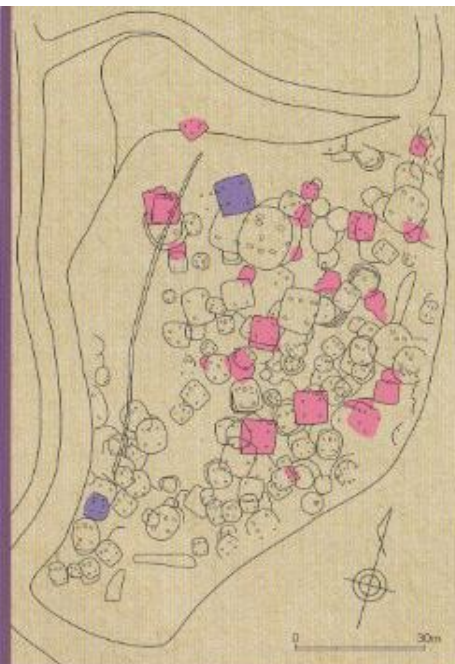
住居の分布 [中期 ■ / 後期 ■]

弥生時代

弥生時代の住居は時期によって形や大きさが違います。その様子は、標石表示や保護棟内の住居跡で、実際に確かめることができます。



弥生時代の終わり頃に途絶えたムラは、古墳時代前・後期(約七〇〇〜一五〇〇年前)になってまた作られます。古墳時代の住居は30軒以上あって、家の形は四角形になり、後期の住居には家の中の北側の壁にカマドが備えられるようになりました。



住居の分布 [前期 ■ / 後期 ■]

古墳時代



カマドは粘土や切り出した岩などで作られ、土器をかけて煮炊きができるようになっています。前の時代と比べて住居は台地の中央にまとまっており、時代によってムラの作り方に違いがあることがわかります。



住居からは、壺・甕・甔(コシキ)・坏(ツキ)・高坏(タカツキ)・器台(キタイ)などの土器のほか、漁網に使われる土錘、糸紡ぎ





三殿台(さんとのだい)遺跡は、昭和38年に保存することが決定され、昭和42年1月31日に、横浜市三殿台考古館として開館。三殿台遺跡からは、250軒を越す縄文・弥生・古墳時代の竪穴住居跡などの遺構がが発見されました。

